

氏名

--

数学解答紙 [その一]

受験番号

--	--	--	--	--	--	--	--

1

評点欄

1

(1)  $D(x, y, z)$  とする。

$$OD^2 = x^2 + y^2 + z^2 = 4, \quad AD^2 = (x-2)^2 + y^2 + z^2 = 4,$$

$$BD^2 = (x-2)^2 + (y-2)^2 + z^2 = 4, \quad CD^2 = x^2 + (y-2)^2 + z^2 = 4 \quad \text{であり}$$

これを解くと  $x=1, y=1, z=\pm\sqrt{2}$  よって  $D_1(1, 1, \sqrt{2}), D_2(1, 1, -\sqrt{2})$

(2)  $a\vec{OA} + b\vec{OD}_1 - \vec{OP} = a(2, 0, 0) + b(1, 1, \sqrt{2}) - (1, 1, 0) = (2a+b-1, b-1, \sqrt{2}b)$

$(a\vec{OA} + b\vec{OD}_1 - \vec{OP}) \perp \vec{OA}$  より  $(a\vec{OA} + b\vec{OD}_1 - \vec{OP}) \cdot \vec{OA} = 0$  なので

$$(2a+b-1) \cdot 2 + (b-1) \cdot 0 + \sqrt{2}b \cdot 0 = 0 \quad \text{よって} \quad 2a+b-1=0$$

また,  $(a\vec{OA} + b\vec{OD}_1 - \vec{OP}) \perp \vec{OD}_1$  より  $(a\vec{OA} + b\vec{OD}_1 - \vec{OP}) \cdot \vec{OD}_1 = 0$  なので

$$(2a+b-1) \cdot 1 + (b-1) \cdot 1 + \sqrt{2}b \cdot \sqrt{2} = 0 \quad \text{よって} \quad a+2b-1=0$$

これを解くと,  $a = \frac{1}{3}, b = \frac{1}{3}$

(3) (2) の点 P は正八面体  $V$  の中心なので, 球  $S$  の中心となる。

ここで,  $\vec{OE} = \frac{1}{3}\vec{OA} + \frac{1}{3}\vec{OD}_1$  とすると, 点 E は平面  $OAD_1$  上の点であり, (2) より  $\vec{PE} \perp (\text{平面} OAD_1)$  なので

点 E は正八面体  $V$  と球  $S$  の接点である。

よって, 求める球  $S$  の半径は  $|\vec{PE}|$  であり

$$\vec{OE} = \frac{1}{3}(2, 0, 0) + \frac{1}{3}(1, 1, \sqrt{2}) = \left(1, \frac{1}{3}, \frac{\sqrt{2}}{3}\right) \quad \text{より} \quad \vec{PE} = \left(1, \frac{1}{3}, \frac{\sqrt{2}}{3}\right) - (1, 1, 0) = \left(0, -\frac{2}{3}, \frac{\sqrt{2}}{3}\right)$$

なので, 半径は  $\sqrt{0^2 + \left(-\frac{2}{3}\right)^2 + \left(\frac{\sqrt{2}}{3}\right)^2} = \frac{\sqrt{6}}{3}$

また,  $V$  の各面  $\triangle D_1OA, \triangle D_1AB, \triangle D_1BC, \triangle D_1CO, \triangle D_2OA, \triangle D_2AB, \triangle D_2BC, \triangle D_2CO$  と球  $S$  との接点を順に  $E_1, E_2, E_3, E_4, E_5, E_6, E_7, E_8$  とするとこの 8 点はそれぞれの三角形の重心となるので

$$E_1\left(1, \frac{1}{3}, \frac{\sqrt{2}}{3}\right), E_2\left(\frac{5}{3}, 1, \frac{\sqrt{2}}{3}\right), E_3\left(1, \frac{5}{3}, \frac{\sqrt{2}}{3}\right), E_4\left(\frac{1}{3}, 1, \frac{\sqrt{2}}{3}\right),$$

$$E_5\left(1, \frac{1}{3}, -\frac{\sqrt{2}}{3}\right), E_6\left(\frac{5}{3}, 1, -\frac{\sqrt{2}}{3}\right), E_7\left(1, \frac{5}{3}, -\frac{\sqrt{2}}{3}\right), E_8\left(\frac{1}{3}, 1, -\frac{\sqrt{2}}{3}\right) \quad \text{より}$$

$$\vec{E_1E_2} = \vec{E_4E_3} = \vec{E_5E_6} = \vec{E_8E_7} = \left(\frac{2}{3}, \frac{2}{3}, 0\right), \quad \vec{E_1E_4} = \vec{E_2E_3} = \vec{E_5E_8} = \vec{E_6E_7} = \left(-\frac{2}{3}, \frac{2}{3}, 0\right)$$

$$\vec{E_1E_5} = \vec{E_2E_6} = \vec{E_3E_7} = \vec{E_4E_8} = \left(0, 0, -\frac{2\sqrt{2}}{3}\right) \quad \text{なので}$$

$$|\vec{E_1E_2}| = |\vec{E_4E_3}| = |\vec{E_5E_6}| = |\vec{E_8E_7}| = |\vec{E_1E_4}| = |\vec{E_2E_3}|$$

$$= |\vec{E_5E_8}| = |\vec{E_6E_7}| = |\vec{E_1E_5}| = |\vec{E_2E_6}| = |\vec{E_3E_7}| = |\vec{E_4E_8}| = \frac{2\sqrt{2}}{3}$$

$$\vec{E_1E_2} \cdot \vec{E_1E_4} = \vec{E_1E_2} \cdot \vec{E_1E_5} = \vec{E_1E_4} \cdot \vec{E_1E_5} = 0 \quad \text{より} \quad \vec{E_1E_2} \perp \vec{E_1E_4} \quad \text{かつ} \quad \vec{E_1E_2} \perp \vec{E_1E_5} \quad \text{かつ} \quad \vec{E_1E_4} \perp \vec{E_1E_5}$$

よって, 求める凸多面体はすべての面が 1 辺の長さが  $\frac{2\sqrt{2}}{3}$  の正方形からなる立体である。

以上より, 求める凸多面体は立方体であり, 各辺の長さは  $\frac{2\sqrt{2}}{3}$  である。

氏 名

--

数学解答紙 [その二]

受験番号

--	--	--	--	--	--

評点欄

2

2

(1)

表が出る回数がちょうど6回目の試行で5となるのは、5回目までに表が4回、裏が1回出て、6回目の試行で表が出るときだから、

$$P_6 = {}_5C_4 \left(\frac{1}{2}\right)^4 \left(\frac{1}{2}\right) = \frac{1}{2} = \frac{5}{64}$$

(2)

表が出る回数がちょうどn回目の試行で5となるのは、(n-1)回目までに表が4回、裏が(n-5)回出て、n回目の試行で表が出るときだから、

$$\begin{aligned} P_n &= {}_{n-1}C_4 \left(\frac{1}{2}\right)^4 \left(\frac{1}{2}\right)^{n-5} \times \frac{1}{2} \\ &= {}_{n-1}C_4 \left(\frac{1}{2}\right)^n \\ &= \frac{(n-1)(n-2)(n-3)(n-4)}{4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1} \left(\frac{1}{2}\right)^n \\ &= \frac{(n-1)(n-2)(n-3)(n-4)}{3 \cdot 2^{n+3}} \end{aligned}$$

(3)

(2)の結果から

$$P_{n+1} = \frac{n(n-1)(n-2)(n-3)}{3 \cdot 2^{n+4}}$$

であるから、

$$\begin{aligned} \frac{P_{n+1}}{P_n} &= \frac{n(n-1)(n-2)(n-3)}{3 \cdot 2^{n+4}} \cdot \frac{3 \cdot 2^{n+3}}{(n-1)(n-2)(n-3)(n-4)} \\ &= \frac{n}{2(n-4)} \end{aligned}$$

より、

$$\frac{P_{n+1}}{P_n} > 1 \text{ であるとき、}$$

$$\frac{n}{2(n-4)} > 1$$

$$n > 2(n-4)$$

$$n < 8$$

よって、 $5 \leq n < 8$  のとき  $P_n < P_{n+1}$  が成り立つ。

同様に考えれば、

$$n=8 \text{ のとき } P_n = P_{n+1}$$

$$n > 8 \text{ のとき } P_n > P_{n+1}$$

が成り立つから、

$$P_5 < P_6 < P_7 < P_8 = P_9 > P_{10} > P_{11} > \dots$$

よって、

$$n=8, 9 \text{ のとき } P_n \text{ は最大値 } \frac{35}{256} \text{ である。}$$

氏名

数学解答紙 [その三]

受験番号

--	--	--	--	--	--

評点欄

3

3

(1)  $y' = 2x + 1$ : 直線  $l$  の方程式は

$$y - t^2 = 2t(x - t)$$

$$y = 2tx - t^2 \dots (\text{答})$$

(2)  $l$  と  $x$  軸の交点の  $x$  座標は

$$2tx - t^2 = 0 \text{ より } x = \frac{t}{2}$$

よって

$$S_1(t) = \int_0^{\frac{t}{2}} x^2 dx + \int_{\frac{t}{2}}^t |x^2 - (2tx - t^2)| dx$$

$$= \left[ \frac{1}{3}x^3 \right]_0^{\frac{t}{2}} + \int_{\frac{t}{2}}^t (x - t)^2 dx$$

$$= \frac{1}{24}t^3 + \left[ \frac{1}{3}(x - t)^3 \right]_{\frac{t}{2}}^t$$

$$= \frac{1}{24}t^3 + \frac{1}{24}t^3 = \frac{1}{12}t^3$$

$$S_2(t) = \int_t^6 |x^2 - (2tx - t^2)| dx$$

$$= \int_t^6 (x - t)^2 dx$$

$$= \left[ \frac{1}{3}(x - t)^3 \right]_t^6$$

$$= \frac{1}{3}(6 - t)^3$$

$$S(t) = S_1(t) + S_2(t)$$

$$= \frac{1}{12}t^3 + \frac{1}{3}(6 - t)^3$$

$$= -\frac{1}{4}t^3 + 6t^2 - 36t + 72 \dots (\text{答})$$

(3)  $S'(t) = -\frac{3}{4}t^2 + 12t - 36$

$$= -\frac{3}{4}(t^2 - 16t + 48)$$

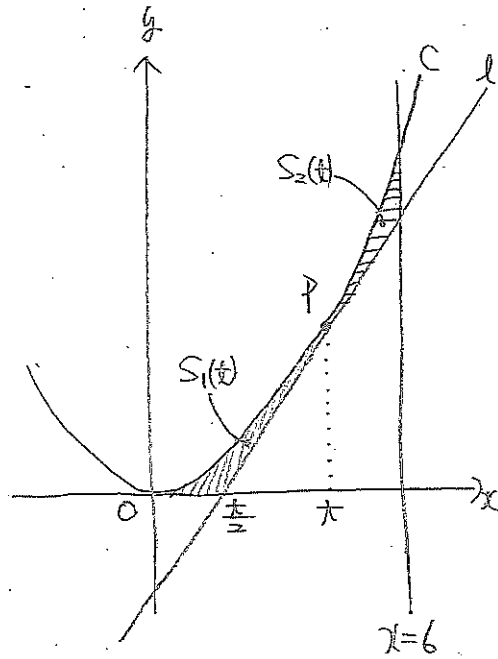
$$= -\frac{3}{4}(t - 4)(t - 12)$$

$$S'(t) = 0 \text{ より } t = 3 \text{ と } t = 12 \text{ であり } 2 \leq t \leq 5 \text{ より } t = 4$$

$t$	2	4	5
$S(t)$	-	0	+
$S(t)$	22	8	$\frac{43}{4}$

増減表より

$t = 2$  のとき 最大値 22  
 $t = 4$  のとき 最小値 8



氏名

--

数学解答紙 [その四]

受験番号

--	--	--	--	--

4

評点欄

4
---

(1)  $P(x)=(x-n)(x^2+px+q)$  と表されるとき、これを展開して  
 $P(x)=x^3+(p-n)x^2+(q-pn)x-nq$  となる。

これと、 $P(x)=x^3+ax^2+bx+2$  の係数を比較することにより

$$\begin{cases} p-n=a & \dots \textcircled{1} \\ q-pn=b & \dots \textcircled{2} \\ -nq=2 & \dots \textcircled{3} \end{cases}$$

①より、 $p=a+n$  となるが、ここで、 $a, n$  は整数であるから、 $p$  は整数となる。

②より、 $q=b+pn$  となるが、 $b, p, n$  は整数であるから、 $q$  は整数となる。

よって、③より、 $n$  は2の約数となる。

(2) (1)より  $n$  は2の約数であるから、 $n=\pm 1, \pm 2$  のいずれかである。したがって、  
 方程式  $P(x)=0$  が異なる3つの整数解をもつとき、解は  $\pm 1, \pm 2$  の中の3つとなる  
 ので、3つの解の組は  $(1, 2, -1), (1, 2, -2), (1, -1, -2), (2, -1, -2)$  の  
 いずれかとなるが、3つの解を  $\alpha, \beta, \gamma$  とおくと、3次方程式の解と係数の関係により、  
 $\alpha\beta\gamma=-2$  となる。よって、3つの解の組は  $(1, 2, -1)$  に限られる。

このとき、 $P(x)=(x-1)(x-2)(x+1)=x^3-2x^2-x+2$  となるので、  
 $a=-2, b=-1$  となる。

(3)  $P(x)=0$  が整数解と実数でない解(虚数解)をもつとき、(1)より  
 方程式  $x^2+px+q=0$  が虚数解をもつ。

この方程式の判別式を  $D$  とおくと、 $D<0$  とならなければならない。

(1)の③式により、 $n>0$  のとき  $q<0$  となり、 $D=p^2-4q>0$  となるので、  
 $n=1, 2$  のとき不適。

i)  $n=-1$  のとき

$q=2, p=a-1, b=a+1$  となるので

$D=p^2-4q=(a-1)^2-8<0$  より、これを満たす整数  $a$  は、 $a=-1, 0, 1, 2, 3$

$a, b$  の組は、 $(a, b)=(-1, 0), (0, 1), (1, 2), (2, 3), (3, 4)$  となる。

ii)  $n=-2$  のとき

$q=1, p=a-2, b=2a-3$  となるので

$D=p^2-4q=(a-2)^2-4<0$  より、これを満たす整数  $a$  は、 $a=1, 2, 3$

$a, b$  の組は、 $(a, b)=(1, -1), (2, 1), (3, 3)$  となる。

以上より

$a, b$  の組は  $(a, b)=(-1, 0), (0, 1), (1, 2), (2, 3), (3, 4), (1, -1), (2, 1),$   
 $(3, 3)$  の8組となる。

